

風景のむこうがわ

会期 / 2013 年 6 月 22 日 (土) ~ 10 月 20 日 (日)
休館日 / 月曜日 (祝日の場合は翌火曜休館)
開館時間 / 10:00 ~ 16:30 (入館は 16:00 まで)



関口雄揮
記念美術館

風景のむこうがわ

関口が自然風景を描き始めたきっかけのひとつに、戦争での体験があります。友人たちと共に戦場へと赴きつつ、ただひとり無事に帰還した関口は、自分だけが生き延びてしまったことへの慚愧の念に苛まれながら、友人たちの鎮魂のために郷里の美しい風景を描き始めたのです。すなわち関口は、風景のむこうがわに、亡き友人たちの姿を見ていたと言えるでしょう。

風景のむこうがわに何者かの存在を見据えるこうした態度は、以後、画家としての関口の基盤となりました。そして、描く風景、見据える対象を共に変化させながら、広範な作品世界を構築して行くのです。秋の原野や紅葉の林、冬の山嶺や漁村、雲間や木立の切れ間から差し込む光芒など、様々な風景のむこうがわに関口は何を見ていたのでしょうか。ご高覧ください。



《雨後》1965 年頃



《曠野の秋》2006 年

◎第2 展示室：四季の風景 ～夏秋の色彩～

豊かな四季に恵まれた日本において、四季それぞれの特徴を敏感に捉え、独自の視点で表現することは、古来より画家たちの重大な関心事でした。無論関口も例外ではありません。

本展では関口の夏から秋にかけての作品を展示します。真っ白い雪に閉ざされる冬を好んで描いた関口が、その対極とも言える色彩豊かな夏や秋という季節をいかに表現したのか、ご覧ください。



《雷》1994 年

◎第3 展示室：印度スケッチ

印度スケッチの連作を紹介します。永観堂の釈迦堂障壁画制作に取り組み始める 2004 年、関口は仏教発祥の地であるインドと、東南アジア諸国取材に訪れます。その際に描かれたスケッチは、信仰と一体となった現地の人々の生活の様子を目撃した関口の、新鮮な驚きに満ちています。

あるいは関口は、彼らが生活する風景のむこうがわに、仏の姿を見い出そうとしていたのかもしれません。



印度スケッチ《ベナレス郊外の農家》2004 年

◎関口雄揮記念美術館

日本画家・関口雄揮（せきぐちゆうき）の作品を所蔵、展示する美術館。年間3回の所蔵作品展の他、館外での特別展示やお茶会などのイベントも開催しています。

展示スケジュール

第1期：2月～6月
第2期：6月～10月
第3期：10月～2月

※展示スケジュールは変更となる場合があります
※各会期の間では、展示替え作業のため1週間程度休館させていただきます
※ご来館の際はホームページまたはチラシなどで会期をご確認ください



◎Cafe ボザール

館内併設のカフェ。明るく開放的な空間で、周囲の景色を楽しみながらご休憩いただけます。カフェのみでもご利用いただけますので、お気軽にお立ち寄りください。

Menu

コーヒー	¥500
ココア	¥600
抹茶	¥600
フルーツハーブティー	¥450
レモンスコーン	¥250
抹茶シフォンケーキ	¥400
アイス3種盛り	¥500
他	



◎ご利用案内

入場料金

	大人	大学 専門学校生	中高生	小学生	幼児
通常	¥800	¥600	¥400	¥200	無料
リピーター※1	¥600	¥400	¥200	¥100	無料
芸森※2 / 団体※3	¥700	¥500	¥300	¥100	無料

※1 当館入場券の半券をお持ちの方 ※2 札幌芸術の森美術館の観覧券をお持ちの方
※3 15名様以上の団体

敬老優待（要敬老手帳）¥600 障害者優待（要障害者手帳）通常料金の半額 前売り券 ¥600

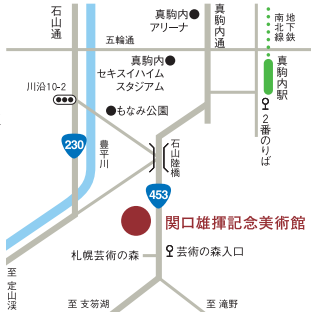
アクセス

◎地下鉄・バスをご利用のお客様

地下鉄南北線「真駒内」駅バス2番乗り場より
中央バス乗車（約14分）「芸術の森入口」下車
真駒内方面へ徒歩1分

◎お車をご利用のお客様

札幌市街中心部より国道453号線を南下
支笏湖方面へ（約40分）
専用駐車場あり



関口雄揮記念美術館

〒005-0853 札幌市南区常盤3条1丁目（芸術の森入口）
TEL 011-593-5050 <http://www.sekiguchi-muse.jp/>